



県内のスーパーなどで野菜が高値になっています。

野菜高騰

日照不足／豪雨で産地被災

供給回復には時間

長雨による日照不足や豪雨災害の影響で、県内のスーパーなどで野菜が高値になっている。品薄から普段の2倍以上になっている商品もあり、消費者からは「困る」「早く安く」なると嘆く声が聞かれる。梅雨明けは大幅に遅れ、被害からの復旧にかなりの時間がかかる産地もある。市場関係者は「価格高騰はしばらく続きそう」とみている。



長雨による日照不足や産地の被災で野菜が高値となっている＝29日、大分市のコープ大分駅店、撮影・鎌手美和

①野菜が高値になっている原因は何でしょう？

.....長雨による日照不足や、産地が豪雨被害を受けたことで品薄になっているため。

②大分市金池南のスーパー「コープ大分駅店」での野菜価格はどんな状況ですか？

.....いつもは1束98円の小松菜を258円（29日時点）で販売している。水菜や春菊の価格は2倍近く。県内や周辺の県から仕入れた野菜が高くなっている。

大分市金池南のスーパー「コープ大分駅店」は、いつもは1束98円の小松菜を258円（29日時点）で販売している。水菜や春菊の価格は2倍近く。県内や周辺の県から仕入れた野菜が高くなっている。同市庄の原の主婦野田玖美子さん（76）は、商品を眺めながら「全体的に高い。早く安く買ってほしい」と困り顔。農産担当の稗田茜さん（28）は「品薄で入荷が安定せず、価格は1日ごとに大きく変わる。お客さんに申し訳ない」。束の量を半分にするなど、なるべく安く提供できるように努めているという。

大分地方気象台によると、県内は6月25日から日照時間が少ない状態が続き、平年の5、6割程度になっている。J A玖珠九重（本店・玖珠町）トマト部会の永薬哲彦部会長（56）は「日照不足と低温で結実がうまくいかず、色付きも良くない」と話す。大分市公設地方卸売市場では、特に葉物や夏野菜が高騰。今月上旬、県内と福岡、熊本両県の産地が豪雨の被害を受けたことも大きな要因となっている。県内を含む九州北部地方の梅雨明けは平年の今月19日からずれ込んでいる。野菜について、同市場の岩尾嘉臣野菜部長（58）は「盆時期までは供給量が少なく、高値が続く可能性がある」と見通している。（中村みを、小松和茂、鉢上光樹）

③同店やJ A玖珠九重トマト部会の人は価格やトマトの状況について何と話していますか？

.....スーパーの人は「品薄で入荷が安定せず、価格は1日ごとに大きく変わる。お客さんに申し訳ない」、J Aトマト部会の人は「日照不足と低温で結実がうまくいかず、色付きも良くない」と話している。

④今後の野菜価格の見通しについて、大分市公設地方卸売市場の担当者は何と話していますか？

.....「盆時期までは供給量が少なく、高値が続く可能性がある」と話している。